



収穫祭等の部落行事を通じ良好なコミュニケーションが図られている。自治館に飾られた昭和49年当時の「長寿会」の写真に象徴されるように昔から高齢者を大切にしてきた集落。集落でサロンは実施していないが、老人会や既存の女性グループに所属し、いきがい活動に精力的に取り組む方が多い。

### ■集落の高齢者の集まりを作る

- ・高齢者が気軽に集まって歌ったり、踊ったりしたい。

⇒中ノ目北自治館でのサロン開設を検討しよう。(リーダーの問題、農繁期は避けるなど整理)

### ■家族・地域の絆を大切に!

- ・これからも隣近所同士仲良く暮らしていきたい。

⇒「寝たきりになっても花見のできる町・車椅子になっても孫の運動会に行ける家族関係、近所付き合い」を実現する。(寝たきりになった方には枕元に桜の枝を届ける)

### ■高齢社会にあるからこそ自分の生きがいづくりを大事(第一)に

- ・高齢者自身が自分の生き方を真剣に考え老後の楽しみ方を若い人にアピールしていこう。

⇒少子化だからといって若者の将来や生活を心配する必要はない。

⇒老人会(萩生東部長生会)などの活動に積極的に参加し、健康について教養を高める。

### ■これからの課題は集落における世代間のつながり構築

- ・集落の行事を見つめ直し、若者の役割を見つけだす。

⇒高齢者が中心となりながら集落の20代が部落行事等に参加しやすい環境、仕組みを考える。

⇒既存の部落行事を盛り上げながら新たなイベントの開発を検討する。